

授業の概要

日時：令和3年9月13日～9月17日（発表会は9月30日、10月7日）。場所：各実習施設（心身障がい児(者)施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院、等）、熊本大学医学部医学科。内容：オリエンテーション・グループワークを行い、実習する施設にて学ぶべきことを確認する。施設での実習では、グループに分かれて各施設に赴き、医療・介護・福祉の現場で見学・体験実習を行う。具体的には、施設の全体像（施設、スタッフ、患者の概要、主な設備、活動の内容）の把握・記録、看護（介護）体験、リハビリ見学、ケースワーカーとの面接、ケースカンファレンス参加等。特定の患者についてのケースワーク（面接調査：現在の状況、既往歴、生活歴等）も可。施設での実習では、スタッフの指導・評価を受ける。グループで振り返りとまとめを行い、発表会にて口頭での発表を行う。

実務経験を活かした授業

該当

（実習施設にて医療活動を行っている指導者より直接指導を受ける。）

学修目標

A水準（到達すれば「優」に相当）

早期臨床体験実習Iで該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>）を参照する。

具体的には、学修成果に関して以下の項目について十分に達成しているレベルをA水準とする。

レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階:

A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3)

レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 6)

レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)

A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目2, 5について考察することが求められる。B. 基本的診療能力の項目10は、現場を体験し知識・態度を獲得することが望まれる。C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践については、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、その能力獲得のための知識と態度を学ぶことが重要である。またG. 地域医療と社会貢献の項目1, 2については実際の現場の体験を通じ知識の獲得と理解に努める。

コアカリキュラムでは、

「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4)コミュニケーション能力」「A-5)チーム医療の実践」「A-6)医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」にある学修目標の獲得がある程度できているものをA水準とする。

C水準（到達すれば「可」に相当）

早期臨床体験実習Iで該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto->

u.ac.jp/medical/obe/) を参照する。
 具体的には、学修成果に関して以下の項目について最低限達成しているレベルをC水準とする。
 レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階:
 A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目10)、
 C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3)
 レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 6)
 レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)
 A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目2, 5について考察することが求められる。B. 基本的診療能力の項目10は、現場を体験し知識・態度を獲得することが望まれる。C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践については、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、その能力獲得のための知識と態度を学ぶことが重要である。またG. 地域医療と社会貢献の項目1, 2については実際の現場の体験を通じ知識の獲得と理解に努める。
 また、コアカリキュラムでは、
 「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4コミュニケーション能力」「A-5チーム医療の実践」「A-6医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」にある学修目標の獲得の足掛かりを得ることをC水準とする。

評価方法 ・基準

本実習の評価はオリエンテーション・発表会も含めた実習中の態度についてとなる。実習にやむを得ない理由(病気・怪我・忌引など)なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。

総括的評価は実習先指導者による評価(70%)、およびグループでの口頭発表に対する教員と学生による評価(30%)にて行う。前記合計が60%以上で合格とする。

また、ログブックにより自己評価・学生間の相互評価とスタッフからの形成的評価を行う。

履修条件 各回の 授業内容と 事前・事後 学習

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1	「医学情報処理」での予習GW	「医学情報処理」にて、実習施設についての予習などを行う。
2 2021-09-13	月曜日、全日、施設でのオリエンテーション、実習	施設への移動と導入オリエンテーション、実習
3 2021-09-14	火曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。
4 2021-09-15	水曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。

回	授業テーマ	内容概略
5 2021-09-16	木曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。
6 2021-09-17	金曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。
7 2021-09-30	木曜日、3,4限、ECE1 発表会1	グループごとに実習についてスライドソフトと配布資料にてプレゼンテーションを行う。
8 2021-10-07	木曜日、3,4限、ECE1 発表会2	グループごとに実習についてスライドソフトと配布資料にてプレゼンテーションを行う。

授業外学修時間の 目安

本科目は、67.5時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は48時間分となるため、19.5時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、実習の理解を深めるために必要となる。

キーワード

介護体験、多職種連携、心身障がい児（者）、老人保健・医療・福祉

テキスト

特になし

参考文献

特になし

文字列を選択して、右
クリックすると図書の
検索ができます

オフィス ・アワー

担当教員への 連絡方法

担当教員 からの メッセージ

この実習は医療・保健・福祉施設で行われることをわきまえ、言動服装に十分注意すること。施設のスタッフや患者・家族の方々に接する際には態度、言葉遣いに配慮すること。患者等に関する守秘義務を厳守すること。担当施設への詳細打合せ（集合時刻・集合場所・実習時の服装等）は、予め各グループで、責任をもって行っておくこと。
実習前に学生定期健康診断および抗体検査等を必ず受けておくこと。

科目名：早期臨床体験実習Ⅱ（H27以降入用）（日） / Early Clinical ExposureⅡ（英）

基本情報

科目ナンバー	MME1-020-62-0	開講年次	2年生
年度・学期	2021年 通年	曜日・時限	他
担当教員	古川 昇, 王 百慧, 谷口 純一	単位数	1単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	7
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	20025

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	20 %
B) 基本的診療能力	10 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	20 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	30 %
E) 医科学研究	5 %
F) 国際的視野	5 %
G) 地域医療と社会貢献	10 %



詳細情報

講義題目(テーマ) 早期臨床体験実習Ⅱ

使用言語 「日本語」による授業

教科書・資料の言語 「日本語」のテキスト

授業の形態 実習

対面・遠隔の別 対面形式

授業の方法 大学病院における実習

授業の目的 医学科学生にとって、医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育むことは極めて重要である。1年次には早期臨床体験実習1として医療・保健・福祉の現場で臨床体験を行うことによって、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学んだ。早期臨床体験実習2では、熊本大学医学部附属病院において臨床体験を行うことにより、医学を学ぶためのモチベーションと患者と接する態度の向上の更なる獲得はもとより、先進医療の現場における診療体制の実際を見学・体験し、医師・スタッフ・患者とのチーム医療のあり方の理解をより深めることを目的とする。さらに平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4コミュニケーション能力」「A-5チーム医療の実践」「A-6医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2 基本的診療知識」にある学修目標の習得の足掛りを得ることを目的とする。

授業の概要

日時：令和4年3月1日～3月7日。場所：熊本大学病院各診療科・各部署。
内容：学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。配属する診療科・部署は、学生の希望と診療科の許容人数に従い振り分ける。事前にオリエンテーションを行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。一週間の実習終了後、個人毎にレポートを提出する。レポートの内容は後日レポート集として編集し学生や受け入れ部署に配布する。

実務経験を活かし 該当

た授業

学修目標

(実習施設にて医療活動を行っている指導者より直接指導を受ける。)

A水準（到達すれば「優」に相当）

早期臨床体験実習IIで該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>) を参照する。

学修成果に関しては以下の項目について十分に達成しているレベルをA水準とする。

① レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3)

② レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 6)

③ レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)

特に早期臨床体験実習IIでは、A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目2, 5についてさらに深い考察を行うことが求められる。B. 基本的診療能力については、医療スタッフの職務を観察・一部経験することにより基礎医学で得た知識を具体化するとともに臨床講義の準備として活用する。C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践については、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、その能力獲得のためのさらなる考察・涵養が必要である。

また、コアカリキュラムでは、

「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4)コミュニケーション能力」「A-5)チーム医療の実践」「A-6)医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2 基本的診療知識」にある学修目標の獲得がある程度できているものをA水準とする。

C水準（到達すれば「可」に相当）

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (<http://www.medphas.kumamoto->

u.ac.jp/medical/obe/) を参照する。

学修成果に関しては以下の項目について最低限達成しているレベルをC水準とする。

① レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3)

② レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 6)

③ レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)

特に早期臨床体験実習IIでは、A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目2, 5について考察を行うことが求められる。B. 基本的診療能力については、医療スタッフの職務を観察・一部経験することにより基礎医学で得た知識を再確認する。C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践については、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、その能力獲得のための足掛かりとなることが求められる。

また、コアカリキュラムでは、

「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4)コミュニケーション能力」「A-5)チーム医療の実践」「A-6)医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2 基本的診療知識」にある学修目標の獲得の足掛かりを得ることをC水準とする。

実習の評価は、オリエンテーション・振り返りも含めた実習中の態度による。実習にやむを得ない理由（傷病・事故・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。

総括的評価は実習先指導者の評価(60%)、および学生からのレポートへの評価(40%)にて行う。レポートは内容の妥当性、著しい倫理的逸脱の有無、文章量などを観点として評価する。前記合計が60%以上で合格とする。

また、ログブックにより自己評価・学生間の相互評価とスタッフからの形成的評価を行う。

評価方法 ・基準

履修条件 各回の 授業内容と 事前・事後 学習

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1	オリエンテーション 1回目	早期臨床体験実習2全般の説明
2 2022-02-04	金曜日、1限、オリ エンテーション2回 目	医療情報取り扱い説明、看護 部講義、受け入れ部署からの 説明、実習の最終確認

回	授業テーマ	内容概略
3 2022-03-01	火曜日、全日、早期 臨床体験実習2、1日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。
4 2022-03-02	水曜日、全日、早期 臨床体験実習2、2日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。
5 2022-03-03	木曜日、全日、早期 臨床体験実習2、3日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。
6 2022-03-04	金曜日、全日、早期 臨床体験実習2、4日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。
7 2022-03-07	月曜日、全日、早期 臨床体験実習2、5日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。

授業外学修時間の 目安

本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は40時間分となるため、5時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、実習の理解を深めるために必要となる。

キーワード テキスト

先進医療、コミュニケーション、チーム医療
特になし

参考文献

各診療科・各部署より、必要に応じて適宜指示あり。

文字列を選択して、右
クリックすると図書の
検索ができます

オフィス ・アワー

担当教員への 連絡方法

担当教員 からの メッセージ

- 1) 服装、言動には十分配慮すること。すべての世代の方から受け入れてもらえる服装、髪型、言動であること。白衣、胸章（名札）を着用すること。
- 2) 体調不良などあれば、すぐに各科実習担当医あるいは近くの医療関係者に報告すること。がまんしない。過去に手術部にて気分不良で倒れた学生さんがいます。倒れる前に報告してください。
- 3) 実習前に学生定期健康診断および抗体検査等を必ず受けておくこと。

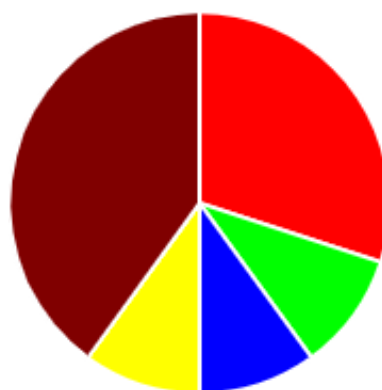
科目名：早期臨床体験実習Ⅲ（H27以降入用）（日） / Early Clinical ExposureⅢ（英）

基本情報

科目ナンバー	MME1-030-62-0	開講年次	3年生
年度・学期	2021年 通年	曜日・時限	他
担当教員	谷口 純一, 田宮 貞宏, 松井 邦彦, 古川 昇, 高柳 宏史	単位数	1単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	8
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	20026

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	30 %
B) 基本的診療能力	10 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	10 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	10 %
E) 医科学研究	0 %
F) 国際的視野	0 %
G) 地域医療と社会貢献	40 %



詳細情報

講義題目(テーマ) 早期臨床体験実習Ⅲ

使用言語 「日本語」による授業

教科書・資料の言語 「日本語」のテキスト

授業の形態 実験

対面・遠隔の別 対面形式

授業の方法 学外実習施設における実習

授業の目的 この早期臨床体験実習3 (Early Clinical Exposure 3, ECE3)は医学部医学科3年次に課す必修科目の一つである。医学科学生にとって、医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育むことは極めて重要である。1年次には早期臨床体験実習1として医療・保健・福祉の現場で臨場体験を行うことによって、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学んだ。早期臨床体験実習2では、熊本大学医学部附属病院において臨床体験を行うことにより、医学を学ぶためのモチベーションと患者と接する態度の向上の更なる獲得はもとより、先進医療の現場における診療体制の実際を見学・体験し、医師・スタッフ・患者とチーム医療のあり方の理解を深めた。早期臨床体験実習3では、地域社会（市中の医療機関、へき地・離島、等）で求められる医療・保健・福祉・介護等の活動を経験し、そこで求められる臨床能力

を理解し、各々の実態や連携（多職種連携やチーム医療）とコミュニケーションの必要性を学ぶことを目的とする。

授業の概要

日時：2021年11月26日、11月29日～12月3日。場所：熊本大学医学部、熊本県内の医療機関。内容：学生を各施設に配属し、各施設が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。配属する施設は、学生の希望と施設の許容人数に従い振り分ける。11月26日に導入のワークを大学にて行う。11月29日から12月3日まで県内の医療機関において実習を行う。実習中は口グブックにて実習記録を作成し、実習先指導担当者と振り返りを行う。12月3日午後は大学に戻り、振り返りを行う。

実務経験を活かした授業

該当

(地域の医療機関で診療・医学教育を担当したことのある教員が、本実習について担当する。)

学修目標

A水準（到達すれば「優」に相当）

早期臨床体験実習では、熊本大学医学部医学科教育成果において、以下の項目についてそれぞれのレベル段階での能力を獲得することを到達目標とする。

レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階:

A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3)

レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目2)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 6)

レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)

特にECE3では、レベルBの段階としてA (項目3,4,5)、D (項目1,2,3)、レベルCの段階としてB (項目5,6)、C (項目2,3)、D (項目4,5,6,7)、G (項目1,2,3,4,5)、レベルDの段階としてB (項目7,12,13)、以上の項目と段階については、地域医療の現場での体験を通してさらなる知識を獲得し、より深く観察・経験・考察し能力の獲得に努める。

C水準（到達すれば「可」に相当）

合否科目のため、A基準の目標を参照すること。また、評価方法・基準の項目に記載のあるように、大学で実施する「導入」「振り返り」ならびに各医療機関で実施される「実習」での評価をもとに総合的に判断する。

評価方法・基準

実習の評価は、大学で実施する導入・振り返りワークへの参加態度、提出物、さらに実習先指導担当者による実習期間中の評価票を合わせて、総括的評価を行う。実習にやむを得ない理由（傷病・事故・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。

履修条件

各回の授業内容と事前・事後学習

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1	オリエンテーション	実習の説明、実習先振り分けなど
2	導入ワーク	講義室に集まり導入のための個人ワーク、グループワークを行う
2021-11-26		

回	授業テーマ	内容概略
3 2021-11-29	学外実習1日目	各実習施設にて実習を行う。
4 2021-11-30	学外実習2日目	各実習施設にて実習を行う。
5 2021-12-01	学外実習3日目	各実習施設にて実習を行う。
6 2021-12-02	学外実習4日目	各実習施設にて実習を行う。
7 2021-12-03	学外実習5日目	午前中まで各実習施設にて実習を行う。遠方での実習の場合は移動時間となる。
8 2021-12-03	振り返りワーク	実習最終日の午後に大学の講義室に集まる。実習期間中に経験した内容をもとに振り返りを行う。

授業外学修時間の 45時間の学修が必要な内容で構成されている。

目安

キーワード 地域医療、コミュニケーション、チーム医療、基本的臨床技能

テキスト 特になし

参考文献 各施設より、必要に応じて適宜指示あり。

文字列を選択して、右
クリックすると図書の
検索ができます

**オフィス
・アワー**

**担当教員への
連絡方法**

**担当教員
からの
メッセージ**

- 1) 実習施設は学生が主体となって割り振りを行う。
- 2) 実習前に、実習施設へ連絡を行う。事前に実習の準備等の打ち合わせを行うこと。
- 3) 地域住民のご理解で実習を行えることを重々意識して実習をすること。服装、言動には十分配慮し、すべての世代の方から受け入れてもらえる服装、髪型、言動であること。白衣、胸章（名札）を着用すること。
- 4) 体調不良などあれば、すぐに各施設実習担当者あるいは教務係に報告すること。
- 5) 実習の移動に際しては、公共交通機関を利用し、事故等に十分気をつけること。
- 6) 実習前に学生定期健康診断、各種抗体検査、インフルエンザワクチン等を必ず受けておくこと。

科目名：医療と社会（H28以降入用）（日） / Sociomedical Sciences（英）

基本情報

科目ナンバー	MME1-100-79-0	開講年次	4年生
年度・学期	2021年 前期	曜日・時限	他
担当教員	古川 昇, 王 百慧	単位数	1単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	17
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	20060

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	25 %
B) 基本的診療能力	5 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	28 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	17 %
E) 医科学研究	5 %
F) 国際的視野	10 %
G) 地域医療と社会貢献	10 %



詳細情報

講義題目(テーマ) 医療と社会

使用言語 「日本語」による授業

教科書・資料の言語 「日本語」のテキスト
(特になし(各担当教員が独自に資料を作成する))

授業の形態 講義

対面・遠隔の別 併用(対面主)

授業の方法 複数の教官によるオムニバス形式

授業の目的 医療法制や医療行政、医療安全、臨床心理学、医療人類学などを通して、社会的・行動科学的側面から医療や健康に関する問題を理解する。
平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「A-7-2) 国際医療への貢献」「A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢」「B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度」「B-4 医療に関連のある社会科学領域」「C-5 人の行動と心理」の学修目標の習得を目的とする。特に「B-4 医療に関連のある社会科学領域」の以下の目標の習得を目的とする。
医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。
病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
自分が所属する文化を相対化できる。
人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。
人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することがで

きる。
文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。
国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して解決案を提案できる。
社会をシステムとして捉えることができる。

以下の内容について学修する。

- 1) 行動科学、社会医学および医療倫理学を、科学的知見の進歩に基づき理解する。
- 2) 医師法など基本的な法律と医療裁判の現状について理解する。
- 3) 医療行政の現状について理解する。
- 4) 臨床心理学について、基本的な心理臨床や臨床心理学の実践について理解する。
- 5) 災害医療、医療安全、喫煙行動について理解する。
- 6) 社会的少数集団（発達障害や性的マイノリティー）や医療人類学を理解する。

授業の概要

実務経験を活かし 該当

た授業

学修目標

（その領域の第一人者としての実務経験に基づく講義）

A水準（到達すれば「優」に相当）

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>）を参照する。

学修成果について具体的には、

- ① レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: A. 豊かな人間性(項目1, 2, 3)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野(項目3)、G. 地域医療と社会貢献(項目3, 4)
- ② レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: A. 豊かな人間性(項目4, 5)、B. 基本的診断能力(項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、E. 医科学研究(項目1, 2, 3, 4, 5)、F. 国際的視野(項目2, 4)、G. 地域医療と社会貢献(項目1, 2, 5, 6)

医学教育モデルコアカリキュラムについて具体的には、

- ① 医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。
- ② 病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
- ③ 自分が所属する文化を相対化できる。
- ④ 人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。
- ⑤ 人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。
- ⑥ 文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。
- ⑦ 国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して解決案を提案できる。
- ⑧ 社会をシステムとして捉えることができる。

C水準（到達すれば「可」に相当）

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>）を参照する。

学修成果について具体的には、

- ① レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目3, 4)
- ② レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: A. 豊かな人間性 (項目4, 5)、B. 基本的診断能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、E. 医科学研究 (項目1, 2, 3, 4, 5)、F. 国際的視野 (項目2, 4)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 5, 6)
- 医学教育モデルコアカリキュラムについて具体的には、
- ① 医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。
- ② 病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
- ③ 自分が所属する文化を相対化できる。
- ④ 人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。
- ⑤ 人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。
- ⑥ 文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。
- ⑦ 国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して解決案を提案できる。
- ⑧ 社会をシステムとして捉えることができる。

この講義では筆記試験を実施しない。学生の評価は出席を含めた学習態度と以下のレポート評価による。やむを得ない理由（傷病、事故、忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。

評価方法

評価方法 ・基準

1. 各講義での小レポート(70%)
2. 講義期間を通じての総合レポート（レポート内容は講義で示す）(30%)

評価基準

レポートは内容の妥当性、著しい倫理的逸脱の有無、文章量などを観点として評価する。総括的評価として上記2項目合計が60%に満たないものは不可とする。

再試験は原則行わない。

履修条件

各回の 授業内容と 事前・事後 学習

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1 2021-04-05	月曜3限 臨床心理学 (1)	王百慧先生（臨床医学教育研究センター・特任助教） 臨床心理学の基本的知識について概説する。

回	授業テーマ	内容概略
2 2021-04-12	月曜3限 行動科学	加藤貴彦先生（公衆衛生学分野・教授） 行動科学について解説し、最新の研究トピックについて講義を行う。
3 2021-04-19	月曜3限 臨床心理学（2）	王百慧先生（臨床医学教育研究センター・特任助教） 医療における臨床心理学の実践について講義を行う
4 2021-04-26	月曜3限 顧みられない熱帯病（NTDs）	濱野真二郎先生（長崎大学熱帯医学研究所 寄生虫学分野 教授・非常勤講師） 顧みられない熱帯病について講義を行う。
5 2021-04-28	水曜1限 医療安全	西谷陽子先生（法医学分野・教授） リスクマネジメントの基本
6 2021-05-10	（日程注意・月曜日午後5時より）	勝村久司先生（大阪府立牧野高等学校 首席・非常勤講師） 患者および家族の視点からの医療安全について、講義を行う。
7 2021-05-12	水曜1限 災害医療、国際医療	岡村直樹先生（熊本赤十字病院・非常勤講師） 国際保健と災害医療

回	授業テーマ	内容概略
8 2021-05-17	月曜3限 世界の水銀汚染と水俣条約	井芹道一先生（熊本大学先導機構H I G Oプログラム・非常勤講師） 水俣病の発生から半世紀以上が経過し、2013年10月、熊本市で国連の新環境条約「水銀に関する水俣条約」が採択された。いまなぜ水銀が地球環境問題化しているのか。その意義と水俣条約の中身を、国際取材の現場から解説する。
9 2021-05-19	水曜1限 医療人類学	下地明友先生（菊池有働病院・非常勤講師） 医療人類学について講義を行い、医療が人類にどのように貢献し、今後発展していくか、考察を行う。
10 2021-05-24	月曜3限 医事法制	高木絹子先生（高木法律事務所 弁護士・非常勤講師） 法廷から見た医学と医療について、講義を行う。
11 2021-05-26	水曜1限 医療の質の改善	近本亮先生（医療の質・安全管理部長・教授） 医療安全とリスクマネジメントの実際について、講義を行う。
12 2021-05-31	月曜3限 医療行政	福島靖正先生（厚生労働省・医務技監） 医療行政について、講義を行う。
13 2021-06-02	水曜1限 行動科学・禁煙	高野義久先生（たかの呼吸器科内科クリニック 院長・非常勤講師） 禁煙外来における臨床経験をとおして、行動科学に関する基本的知識の習得を図る。

回	授業テーマ	内容概略
14 2021-06-07	月曜3限 医事法制	西谷陽子先生（法医学分野・教授） 医療安全を中心に講義を行う。
15 2021-06-09	水曜1限 性的マイノリティ・ダイバーシティ	平村英寿先生（長嶺南クリニック 院長・非常勤講師） いわゆるLGBTと呼ばれる性的マイノリティなど、社会的少数集団に関する理解を深め、多様性を尊重する臨床的態度について講義を行う。
16 2021-06-16	水曜1限 男女共同参画	蓮沼直子先生（広島大学 教授・非常勤講師）、市原麻子先生（地域医療センター）、後藤理英子先生（地域医療支援センター・特任助教） 医師の男女比の変遷や男女共同参画の流れ等について学び、社会および医療従事者のワークライフバランスについて認識し、考察を行う。また、社会の多様性への理解を深め、将来の医師としてのプロフェッショナリズムを形成する一助とする。
17 2021-06-23	水曜1限 予備日	予備日とする。また、講義日程が変更となる場合があります。授業内の指示を確認するようにしてください。

授業外学修時間の 目安

本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は34時間分（2h×17コマ）となるため、11時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、授業の理解を深めるために必要となる。

キーワード

行動科学、社会医学、医療倫理学、医療安全、ヘルスプロモーション、循環・共生社会、水俣病、医療政策、地域医療、臨床心理学、医療人類学、多様性

テキスト

特になし（各担当教官が独自に資料を作成する）

参考文献

授業時に適宜紹介する。

文字列を選択して、右
クリックすると図書の
検索ができます

オフィス

・アワー

担当教員への

連絡方法

担当教員

からの

メッセージ

社会の出来事に興味をもつこと。

科目名：公衆衛生学（H26以降入用）（日） / Public Health（英）

基本情報

科目ナンバー	MME2-360-81-0	開講年次	4年生
年度・学期	2021年 前期	曜日・時限	他
担当教員	加藤 貴彦, 魏 長年, 盧 溪, 増田 翔太, 古川 昇, 谷口 純一, 大森 久光	単位数	4単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	46
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	36014

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	20 %
B) 基本的診療能力	20 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	5 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	15 %
E) 医科学研究	15 %
F) 国際的視野	20 %
G) 地域医療と社会貢献	5 %



詳細情報

講義題目(テーマ) 公衆衛生学マインドの修得

使用言語 「日本語と英語によるミックス」授業
(日本語)

教科書・資料の言語 「日本語と英語を併用した」テキスト
(日本語)

授業の形態 講義・演習

対面・遠隔の別 対面形式

授業の方法 講義授業

授業の目的

21世紀のキーワードに高齢社会、情報社会、国際化があり、ヘルスプロモーションの理念と技術を基盤とする健康増進と疾病予防の新しい国際潮流がある。本科目ではこれらの時代的要請に応え、健康情報医学（疫学、生物統計学）、環境保健、産業保健、地域保健、感染症、国際保健医学、医療科学（保健・医療・福祉システム）に関する系統的な講義とともに、医学の社会的適用、医学と社会との関わりに関する理念、観察力、実践の手法を修得する。

授業の概要

個別学習目標SBO（Specific Behavioed Objective）社会医学の分野として、下記項目に関して最新の情報も加味して講義を行う。

実務経験を活かし
た授業 非該当

学修目標

A水準（到達すれば「優」に相当）

「熊本大学医学部医学科教育成果において、以下の項目についてそれぞれのレベル段階での能力を獲得することを到達目標とする（熊本大学医学部医学科教育成果および講義実習対応表参照）。

レベルC（基盤となる技能・態度の修得）：A. 豊かな人間性（項目3）、E. 医学科学研究（項目1、2、3、4、5）、F. 国際的視野（項目4）、G. 地域医療と社会貢献（項目2、3、4、5）

レベルD（基盤となる知識の修得）：A. 豊かな人間性（項目4）、B. 基本的診療能力（項目1、2、3、5、6、7、8、9、14）、F. 国際的視野（項目1）、G. 地域医療と社会貢献（項目6）

一般的学習目標GIO (General Instruction Objective)

①公衆衛生学マインドを身につける：公衆衛生学の特徴は、臨床家の「clinical mind」に対し「public health mind」であることである。すなわち臨床家が一人の患者をみて病気を診断し治療する「patient oriented」であるのに対し、公衆衛生では、患者個人を対象とするのみならず、患者を含めて人々の存在する社会集団そのものを視野にしている「population oriented」であることに大きな特徴がある。

「population」とは、ある国全体、あるいは一定の地域の住民、産業職場で働く人々、学童など、特定の間人集団を対象にする。公衆衛生学では、患者の診断、治療行為にとどまらず、人々が日々充実して過ごすための身体的、精神的、社会的な健康基盤を確保することを目標にする。

②健康の概念の理解している ③日本の医療・保健・福祉制度の理解している ④疫学的手法を理解し、研究計画の立案ができる ⑤健康教育理論の理解と具体的な実践方法を身につける ⑥国際的視野を身につける ⑦環境問題（保健）についての現状と課題について理解している ⑧産業保健の現状と課題について理解し、予防・対策の考察ができる ⑨感染症の疫学的指標を理解、予防・対策について立案できる。⑩母子・小児・成人・老人保健といった、人のライフステージに応じた健康維持・予防方策について理解し、説明できる。

C水準（到達すれば「可」に相当）

水準については、医学教育モデル・コア・カリキュラムおよび熊本大学医学部医学科の学習成果の達成状況に基づいて評価を行う。A水準とは、上記GIOに基づき、目標水準を達成し、さらに自ら課題を設定し解決できる能力を保持している。C水準とは、上記GIOに基づき、目標水準を最低限達成している。

評価方法・基準

履修条件

各回の
授業内容と
事前・事後
学習

課題レポートと学士筆記試験成績による。学士筆記試験の受験資格は医学部規則第11条2項による。課題レポート・学士筆記試験の評価基準の合計は60点（60%）以上を合格とする。再試験は1回実施する。

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1 2021-04-06	健康・疾病・障害の概 念と社会環境①：加藤	序論、公衆衛生・予防医学 の概念
2 2021-04-06	健康・疾病・障害の概 念と社会環境②：魏	序論、健康の概念・歴史
3 2021-04-13	社会保障制度と医療経 済①：加藤	医療費、医療制度、医療保 険

回	授業テーマ	内容概略
4 2021-04-13	地域保健、地域医療 ①：魏	健康の概念 QOL、生活機能分類について
5 2021-04-20	国際保健①：魏	国際保健・医療の課題
6 2021-04-20	国際保健②：魏	国際保健・医療協力 (WHO活動) ①Health promotion
7 2021-04-27	国際保健③：魏	国際保健・医療協力 (WHO活動) ②ICF (国際生活機能分類)
8 2021-04-27	疫学とその応用①：加藤	疫学概論：疫学の特徴、実践的方法論との違い
9 2021-05-11	疫学とその応用②：加藤	疫学研究に用いる指標：診断、感度や特異度
10 2021-05-11	疫学とその応用③：増田	研究デザイン、EBM、診療ガイドライン
11 2021-05-18	国民栄養と食品保健：増田	食品衛生、食中毒、サーベイランス
12 2021-05-18	予防医学と健康保持増進①：魏	予防、スクリーニング
13 2021-05-25	環境保健①：加藤	環境保健総論、環境把握、アセスメント
14 2021-05-25	環境保健②：Lu	毒性学概論、総論、環境の管理、実践的対処法地球環境、環境による疾患（寒冷、高温など）
15 2021-06-01	人口統計と保健統計①：増田	健康指標、人口構造、人口統計（動静）
16 2021-06-01	母子保健・小児保健①：Lu	母子の健康、小児コホート研究
17 2021-06-08	人口統計と保健統計②：増田	死因統計、生命表、ICD10、疾病統計
18 2021-06-08	母子保健・小児保健②：Lu	小児保健における予防接種の意義と内容、児童虐待、移行期医療の現状と課題
19 2021-06-15	学校保健：高野	様々な学校保健活動、生徒のQOL評価
20 2021-06-15	社会保障制度と医療経済②：増田	医療保険行政、災害医学
21 2021-06-18	保健・医療・福祉・介護の仕組み①：増田	地域保健の実践の場としての保健所機能
22 2021-06-18	産業保健①：加藤	過重労働、産業ストレスとストレスコーピング
23 2021-06-18	産業保健②：大森	産業保健総論、実践的活動
24 2021-06-18	高齢者保健：Lu	介護保険、高齢者福祉と高齢者医療の特徴

回	授業テーマ	内容概略
25 2021-06-22	保健・医療・福祉・介護の仕組み②：増田	医療従事者の資格免許、現状と業務範囲、職種間連携
26 2021-06-22	予防医学と健康保持増進②：古川	MetS、特定検診、特定保健指導
27 2021-06-24	成人保健：加藤	行動医学、ヘルスプロモーション、人の行動決定原理
28 2021-06-24	感染症対策：増田	感染症の疫学と予防対策、感染症法、検疫法、最近の動向、医療機関における感染症、事故等の対策
29 2021-06-25	地域保健、地域医療②：谷口（中本）	地域医療に関する地域医療行政
30 2021-06-25	地域保健、地域医療③：谷口（佐土原）	地域医療における我が国の医療供給体制の実際
31 2021-06-25	産業保健③：加藤	作業様態に起因する障害、物理的環境、温度湿度騒音等
32 2021-06-25	産業保健④：加藤	産業安全衛生マネジメントシステム、労働災害、化学物質、皮膚アレルギー、職業癌
33 2021-07-01	保健・医療・福祉・介護の仕組み③：谷口（鶴田）	地域医療の実際 2次医療圏、へき地に関して
34 2021-07-01	予防医学と健康維持増進③：谷口（高柳）	地域医療・保健 プライマリケアのアプローチ
35 2021-07-01	精神保健福祉①：井形	精神保健と健康、ストレス対策
36 2021-07-01	精神保健福祉②：井形	自殺問題と予防、ストレスコーピング
37 2021-07-02	地域保健、地域医療④：魏	農村保険の現状と課題
38 2021-07-02	予防医学と健康維持増進④：都竹	身体活動が生活習慣病、老年病の予防に及ぼす影響
39 2021-07-02	予防医学と健康維持増進⑤：大森	予防医学と健康増進、生活習慣病とリスク要因
40 2021-07-02	トピック① 日本の医療の課題：加藤	日本の医療の課題について
41 2021-07-08	トピック② 統計学：Lu	基本保健統計学、サンプル数
42 2021-07-08	トピック③ 国際保健の現状と課題：吉田	感染症、国際保健に関する現状
43 2021-07-08	トピック④ 疫学調査の実際：小田	国家プロジェクトによる大規模出生コホート「エコチル調査」について
44 2021-07-08	トピック⑤ 放射線衛生学：樺田（録画配信）	放射線衛生学の総論・各論、事故事例紹介

回	授業テーマ	内容概略
45 2021-07-15	トピック⑥ JICAプロ グラムの紹介：魏	タイにおける知的障がい児 支援人材育成プロジェクト
46 2021-07-15	トピック⑦ こうのと りのゆりかご：蓮田	こうのとりのゆりかごをめ ぐる現状と課題

授業外学修時間の 目安

キーワード

テキスト

参考文献

文字列を選択して、右
クリックすると図書の
検索ができます

オフィス ・アワー

担当教員への 連絡方法

担当教員 からの メッセージ

本科目は90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は92時間分（2h×46コマ）となる。

一層の知識を得るために、30時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）を実行すると授業の理解を深めることができる。参考図書や新聞記事から社会医学的情報を収集を自ら学ぶことが望ましい。

公衆衛生、社会医学、予防医学、疫学、産業医学

特になし（各担当教員がプリント資料を作成する）

推薦図書：NEW予防医学・公衆衛生学、シンプル衛生公衆衛生学

1）シンプル衛生公衆衛生学、南江堂

2）NEW予防医学・公衆衛生学、南江堂

3）厚生省の指標（臨時増刊）国民衛生の動向：厚生統計協会、東京

4）基礎から学ぶ楽しい疫学（医学書院）

5）医学的研究のデザイン、研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版
メディカル・サイエンス・インターナショナル

将来第一線で働く臨床医にも、公衆衛生、予防医学、産業医学などの社会医学の知識の修得および疫学的手法の修得の重要性を認識して講義に臨んでほしい。実習については、希望者で行う予定がある。ただし、実習先の協力のもとに行われるため、都合により夏期休暇中に行われることがある。相手あつての実習であることを予め認識しておいておくこと。

科目名：特別臨床実習（H26以降入用）（日） / Special Clinical Practice（英）

基本情報

科目ナンバー	MME4-830-62-0	開講年次	6年生
年度・学期	2021年 通年	曜日・時限	他
担当教員	古川 昇, 王 百慧, 谷口 純一	単位数	38単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	2
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	46081

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	15 %
B) 基本的診療能力	25 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	15 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	20 %
E) 医科学研究	5 %
F) 国際的視野	5 %
G) 地域医療と社会貢献	15 %



詳細情報

講義題目(テーマ)

使用言語 「日本語」 による授業

教科書・資料の言語 「日本語」 のテキスト

授業の形態 実技

対面・遠隔の別 対面形式

授業の方法 特別臨床実習（クリニカルクラークシップ、クリニカルインターンシップ）

授業の目的

診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を以下の4項目を行うことを通して身につけることを目標とする。(1) 臨床推論に基づいた情報収集(医療面接、身体診察、基本的臨床手技、連絡・報告)。(2) 診療計画の立案(基礎的な医学的知識の獲得の機会を提供する、教科書文献的知識と検索技法、症例提示と検討会、診療録記載)。(3) 治療計画の実施(基本的治療手技、他医療職や患者への伝達、文書作成、連絡・報告)。(4) 診療・学習行動の基盤となる倫理・態度(医師のプロフェッショナリズム:患者や患者家族および他の医療職への接し方、自己の職業的能力とその限界に即した行動、助力と助言の受け入れ、自己学習への意欲 など)。

また平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「G 臨床実習」の学修目標の習得を目的とする

授業の概要 クリニカルクラークシップ

5年次から6年次にかけて、1ターム3週間、合計13ターム、39週間。学生を13グループに分け、必修（産科婦人科、小児科、神経精神医学、地域医療）、選択必修（内科系、感覚運動系、外科系、総合系）、選択（学生の希望をもとに配属、5ターム）を周る。6年次は第11タームから第13タームまで。

クリニカルインターンシップ

6年次、1ターム3週間、合計2ターム、6週間。各診療科に配属され、診療参加型の臨床実習を行う。配属診療科は学生の希望をもとに調整する。

実習の詳細は「特別臨床実習の手引き」を参照すること。

該当

実務経験を活かした授業（実臨床を実施している教員の指導の下、学生は診療チームに参加し、その一員として業務を担当しながら実務を学ぶ。）

A水準（到達すれば「優」に相当）

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>）を参照する。

学修成果について以下の項目について十分に達成しているレベルをA水準とする。

① レベルA(診療や研究の現場で実践できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目1, 2, 3, 4)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6)

② レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: E. 医科学研究 (項目1, 2, 3, 5)

医学教育モデルコアカリキュラムについては、「G 臨床実習」にある学修目標の獲得が十分にできているものをA水準とする。

C水準（到達すれば「可」に相当）

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>）を参照する。

学修成果について以下の項目について最低限達成しているレベルをC水準とする。

① レベルA(診療や研究の現場で実践できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目1, 2, 3, 4)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6)

② レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: E. 医科学研究 (項目1, 2, 3, 5)

医学教育モデルコアカリキュラムについては、「G 臨床実習」にある学修目標の獲得が最低限達成しているレベルをC水準とする。

学修目標

評価方法 ・基準

特別臨床実習の総括的評価は、特別臨床実習中の観察評価、統合卒業試験、臨床実習後OSCEによって行う。特別臨床実習中の観察評価は、指導教員（あるいは指導医）による評価を各診療科で行い、集計する。実習にやむを

得ない理由（傷病・事故・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。観察評価合計60%以上を合格とする。
 統合卒業試験本試験は、正答率65%以上を合格とする。なお、統合卒業試験は1回のみ再試験を行う。再試験は正答率70%以上で合格とする。臨床実習後OSCEも合格基準を満たせば合格とする。
 特別臨床実習観察評価、統合卒業試験、臨床実習後OSCEすべてで合格基準を満たすことが必要である。

履修条件

各回の 授業内容と 事前・事後 学習

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1	クリニカルクラークシップ	5年次から6年次にかけて、1ターム3週間、合計13ターム、39週間。学生を13グループに分け、必修（産科婦人科、小児科、神経精神医学、地域医療）、選択必修（内科系、感覚運動系、外科系、総合系）、選択（学生の希望をもとに配属、5ターム）を周る。診療チームの一員として、病棟、外来、検査室、手術室等での患者診療に参加する。実習内容は各実習先から提示される。
2	クリニカルインターンシップ	6年次、1ターム3週間、合計2ターム、6週間。各診療科に配属され、診療参加型の臨床実習を行い卒後の臨床研修への橋渡しとする。配属診療科は学生の希望をもとに調整する。

授業外学修時間の目安 本科目は、1710時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は1710時間分となる。

キーワード 診療参加型臨床実習、問題解決能力、プライマリ・ケア

テキスト なし

参考文献 なし

文字列を選択して、右
クリックすると図書の
検索ができます

**オフィス
・アワー**

**担当教員への
連絡方法**

**担当教員
からの
メッセージ**

1. 臨床実習にともなう事故等をカバーする保険（熊本大学医学生総合保障制度等）に加入することを薦める。
2. 臨床実習前に学生定期健康診断および抗体検査等を必ず受けておくこと。

医政第344号
令和3年（2021年）8月20日

厚生労働省医政局長 様

熊本県健康福祉部長

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和3年8月16日付け3文科高第501号、医政発0816第9号に基づき、下記のとおり、令和4年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

今後、地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」第4条に規定する都道府県計画等に位置付けるための必要な手続きを行います。

記

増員数

5名

・熊本大学医学部における地域枠：5名

担当 : 熊本県健康福祉部健康局医療政策課
企画・医師確保班 足立、村川
電話番号：096-333-2204
E-mail: adachi-m@pref.kumamoto.lg.jp